

地域創生 下川で学ぶ

東京の高校生 町内を訪問

【下川】駒場学園高(東京)の2年生約50人が町内を訪れ、持続可能な開発目標(SDGs)やキャリア

への知見を深めた。

SDGs教育に力を入れている同校は昨年からの修学旅行に当たる「体験旅行」で、下川町や松江市、北九州市などから生徒に選ばせ、地域創生の取り組みを学んでもらっている。

生徒たちは10月23、24の両日、町内を訪問。24日は

間伐材のチップを燃やすバイオマスボイラーで地域の熱供給を行っている一の橋地区を見学。その後、キャリア教育の一環で、移住者4人から経歴や移住のきっかけ、現在の仕事について話を聞いた。

若代葵さん(17)は「便利な東京で暮らしているが、地方で多くの人と触れ合うことができ、成長することができた」と話した。

(朝生樹)



移住者から話を聞く駒場学園高の生徒